



三宅興子先生が 遺されたもの

理事長 宮川健郎

2022年10月21日、三宅興子先生が亡くなりました。84歳でした。

三宅先生は、「(一)財」大阪国際児童文学振興財団の6代目理事長をつとめられ(2010～15年)、その後は特別顧問でした。

三宅先生は、財団の大きな曲がり角の時期の理事長です。2009年3月、子どもの本・子どもの文化にかかわる70万点もの資料の管理・運営が大阪府立中央図書館の直営になることになりました。同時に、万博公園にあった施設の廃止が決まりましたから、資料と施設の管理・運営の主体だった「財団法人大阪国際児童文学館」(当時)は、存続の岐路に立ったのです。さまざま議論をへて、財団の事業を継続することになったわけですが、事務所を府立中央図書館のなかに移し、組織の規模を小さくして再スタートしたのが2010年4月でした。財団の移転、再スタートという大仕事の先頭に立ってくださったのが三宅理事長でした。

「私も財団は、あたかも荒海に漕ぎ出だす小舟ではありますが、前途に子どもたちの明るい未来を見据えて、これからも子どもの本・子どもの文化を通して社会に貢献できるような懸念の努力を続けてまいります。」これは、再スタートのときの財団のあいさつの一節です。



「国際グリム賞」や「日産童話と絵本のグランプリ」の継続、メルマガジンの発行や寄付金の募集、助成金の確保、専門知識を生かした出版物の刊行など、財団は、三宅理事長のときにはじまった事業をいまでも引きつぎ、その発展をめざしています。

三宅先生は、英語圏の児童文学や絵本を中心とする研究者です。2019年には、「国際グリム賞」を受賞され、研究の集大成「三宅興子〈子どもの本〉の研究」全3巻(翰林書房)も刊行されました。先生は、研究者としての深い見識と、その関連なお人柄で、財団の運営にあたってくださったのです。

亡くなる前には、お手元の資料をほぼすべて大阪府立中央図書館国際児童文学館にご寄贈くださいました。それを記念して、2023年11月10日から12月27日まで、大阪府立中央図書館エントランスを会場に「企画展示 子ども本ののはじまりー三宅興子 英語圏児童文学コレクションからー」(主催：大阪府立中央図書館国際児童文学館、協力：当財団)が開催され、

12月17日(日)には、当財団主催で、フォーラム「児童文学とは何かを問い続けて 三宅興子の仕事を顧みる」(講師：多田昌美・藤井佳子・松下宏子)を行います。

三宅先生が遺された仕事と資料をもとに、私たちの新しい勉強がはじまります。財団は、三宅先生からのバトンをたしかに受け取

り、子どもの本・文化の未来を拓く努力を重ねてまいります。皆様にも、よりいっそうのご支援、ご指導をたまりません。お待ちしております。お願い申し上げます。



国際講演会

日本の子ども本に描かれる「西洋」のイメージ —石井桃子翻訳作品からはじめて—

韓国出身で、カナダで育ち、アメリカ合衆国の大学で日本の児童文学を研究し、来日して博士論文執筆中のステイブン・チェさんを講師に迎えて国際講演会を実施しました。

■開催日：令和5年3月25日(土)
■講師：ステイブン・チェ(児童文学研究者)

■対談聞き手：土居 安子(当財団)

■参加者：51人
■主催：当財団

■賛助企業：サントリーホールディングス(株)、富士通Japan(株)、ムサシ・アイ・テクノ(株)

講演の概要

石井桃子が「アー横丁にたった家」を翻訳する過程で、自分や友人がいかに慰められたかに気づいたこと、「若波少年文庫」を出版



するにあたっての石井の本の選択眼一九五〇、六〇年代の「世界名作」チームにあたっての完訳主義であった石井の影響、英語の原文と翻訳を比較しながら石井桃子の翻訳から見られる子ども観などについて述べられました。そして石井が戦後の日本児童文学に果たした役割についてまとめられました。

後半は質疑応答を中心に、石井桃子を中心とした日本児童文学史について意見交換がなされました。○報告集を販売しています。(800円)

講演と鼎談
国際児童文学館所蔵資料にみる
絵本史にかがやく名著たち

大阪府府立中央図書館国際児童文学館には、日本の絵本史を作ってきた作品が多く所蔵されています。どのような資料があり、それらが絵本史の中でどのような役割を果たしてきたのかを考える講演会と鼎談を開催しました。



また、同時開催として、国際児童文学館の貴重な絵本資料が大阪府立中央図書館のエンターランスで展示され、当財団も企画協力しました。

- 開催日：令和4年12月11日(日)
- 場 所：大阪府立中央図書館
- 講 師：宮川健郎、遠藤純、土居安子(当財団)
- 参加者：58人
- 主 催：当財団
- 後 援：大阪府立中央図書館
- *子どもゆめ基金助成活動

講演会
ことばのたのしみ
絵本のたのしみ

- 開催日：令和4年10月8日(土)
- 場 所：大阪府立中央図書館
- 参加者：55人

- 講 師：石津ちひろ(詩人・翻訳家)
- 主 催：気になる本を読む会・当財団
- 協 力：大阪府立中央図書館
- *子どもゆめ基金助成活動



講演と対談
日本児童文学が宮沢賢治から受け取ったもの

- 開催日：令和5年3月21日(火・祝)
- 場 所：大阪府立中央図書館 ライテイホール
- 参加者：180人
- 内 容：基調報告「宮沢賢治の評価史と賢治童話の影響をうけた児童文学」 宮川健郎(当財団理事長、宮沢賢治学会理事)

講演「賢治童話の絵本化とマンガ化」 大島丈志(宮沢賢治学会理事、文教大学教授) 対談「童話作家・富安陽子さんに「賢治」を聞く」 聞き手・遠藤純(当財団理事、宮沢賢治学会理事、武庫川女子大学准教授)

- 主 催：宮沢賢治学会イーハトーブセンター、日本児童文学学会関西例会、当財団



オンライン講座
2021年に出版された
子どもの本

2021年に出版された子どもの本約300冊をテーマやジャンル、年齢別に紹介し、現在の子ども本の傾向について考える講座をオンラインで配信しました。

- 配信日：令和3年5月6日(土) 令和4年12月15日(木)
- 場 所：大阪府立中央図書館
- 講 師：土居安子
- 参加者：179人
- 主 催：当財団

オンライン国際講演会
ことばを超えて
ー絵で物語る

- 開催日：令和3年12月16日(木) 令和4年3月26日(土) 令和4年6月12日(日)
- 講 師：デイヴィッド・ウィズナー(アメリカ合衆国の絵本作家 ショーン・タン)
- 司 会：土居安子(当財団総括専門員)
- 字幕翻訳：松下宏子(関西大学 非常講師ほか)
- 参加者：276人
- 報告集を販売しています。(1100円)

オンライン講座
授業に役立つ！子ども
の文学5つのレッスン

- 配信日：令和3年11月30日(火) 令和5年3月31日(金)

- 第1回 宮沢賢治を読み直す① 「注文の多い料理店」(宮川健郎)
- 第2回 宮沢賢治を読み直す② 「雷渡り」(遠藤純)
- 第3回 あまんきみこを読み直す①「白いぼうし」と「名前を見てください」(宮川健郎)
- 第4回 あまんきみこを読み直す②「ちいちゃんのかげおくり」(土居安子)
- 第5回(特別編) あまんきみこを読み直す③あまんきみこさん 聞く読むことの喜び
- 主 催：当財団

目録
童話と絵本のグランプリ

アマチュア作家を対象にした創作童話と絵本のコンクール「第39回日産童話と絵本のグランプリ」を実施しました。審査の結果、入賞作品38編を決定しました。

- 応募数 童話の部1,806点、絵本の部361点 計2,167点
- 童話の部 大賞 「あたしは本をよまなご」 コウタリ リンさん
- 絵本の部 大賞 「なんかひとりのおかない？」 つめほら まんなさん

●表彰式を令和5年3月4日(土)に大阪府立中央図書館ライテイホールで開催しました。特別講演会を実施し、YouTubeで無料配信しています。

- 特別講演：「絵本の絵を描く」 講師：黒井健(絵本部門審査員、絵本画家)

- 配信開始：令和5年4月28日(金)
- 内 容：2022年に画業50周年を迎えられた黒井健先生が、自作を通して、絵本や創作活動について話された。

また、第38回童話の部大賞および絵本の部大賞作品をBL出版から令和4年12月に出版しました。



作 莉那 / 黒口 横須賀 香



作 ホソカワレイコ

子どもに本を
手渡す人のために

講座への講師派遣

子どもの読書活動にかかわるボランティア、司書、学校司書、教員、保護者や子どもの本に関心のある人等を対象とした、本の選び方や読書活動のありように関する研修や、本の楽しさを伝える講座、講演会、読書会の講師として、総括専門員、特別専門員を派遣しました。

実施回数：57回

●気になる本を読む会

大阪府域の学校司書とともに、選書をはじめとする学校図書館活動に関わる研究会を実施しました。

- ・登録者数：27人
- ・実施回数：11回

●審査員・委員など

左記の事業等に、審査員や委員として参加しました。

- ・第18回大阪子ども「本の帯創作コンクール」
- ・令和4年度「心の輪を広げる体験作文」審査（大阪府福祉部）
- ・第41回人権啓発詩・読書感想文審査会（大阪府府民文化部）
- ・「コープのえほんでスマイル」専門委員会（大阪いずみ市民生活協同組合）

・豊中市立東丘小学校での小学生を対象とした、物語体験ワークショップ（2回）

●児童養護施設でのおはなし会

大阪府域の児童養護施設で「おはなし会」や人形劇を開催しました。



おはなし会4回
人形劇 3回
絵本の寄贈のみ
2施設
出演：おはなしポップ、人形劇団ワラルテ

＊（二財）高津成和会助成事業

●「子ども童話交流2022」に参加し、オンライン上で子どもたちと絵本作りをしました。
開催日：令和4年8月16日（火）～19日（金）
参加者：25名
主催：日中韓子ども童話交流実行委員会
協力：大阪府立中央図書館

協力：大阪府立中央図書館

子どもたちに「おはなしの楽しさ」を

●大阪府立中央図書館との連携

大阪府立中央図書館こども資料室でのおはなし会および人形劇は、新型コロナウィルス感染症拡大防止のためすべて中止となりました。

●小学校や図書館でのおはなし会やワークショップ

・国立国際美術館「ちっちゃなこどもびじゅつあー」

●街頭紙芝居の実演

「むかしの紙芝居を楽しもう」
開催日：令和4年11月5日（土）
場所：大阪府立中央図書館
出演：（一社）塩崎おとぎ紙芝居博物館
主催：大阪府立中央図書館、国際児童文学館、当財団
協力：（一社）塩崎おとぎ紙芝居博物館



●「おはなしポップ」と「人形劇サークルぱれっと」の財団事業への参画
子どもと本をつなぐさまざまな事業に当財団所属のボランティアグループに参画していただきました。

また、「おはなしポップ」は、絵本やおはなしに関する研修を3回行いました。

●ほんナビきつず

子どもの本をあらすじ・キーワードから探す

「ほんナビきつず」はインターネットで楽しく遊びながら、ことばや感情を選ぶことによってお気に入りの本に出会うシステムです。キーワード、あらすじは当財団で独自に作成。令和4年度は1,504冊の本を追加しました。
共同開発：富士通Japan（株）

●本の海大冒険の充実

平成26年度にリニューアルしたインターネットで読みたい本が探せるサイト「本の海大冒険」に新刊図書データの追加し、いっそうの充実を図りました。

また他にも、インターネットを見ながら絵本の作り方を体験することができる「ドキドキ絵本づくり for Kids」や、子どもと子どもに読書をすすめる大人を対象に、マンガを通じた読書の楽しさを広がり、インターネットで検索したり、遊んだり、体験しながら知ることのできる「マンガのひみつ大冒険」も公開しています。

協力：（株）ジャスティス

子ども読書活動の推進のために

●大阪府子ども読書活動推進施策への協力

多言語読書活動推進事業への協力
府域の外国語のルーツのある保護者や子どもの読書環境の充実に資することを目的として、外国語絵本リストの作成および外国語絵本の選書・購入を行いました。

（一）外国語絵本リストの作成
中国語、ベトナム語、英語、フィリピン語、韓国語の絵本リストを作成しました。

（二）外国語絵本の選書・購入
中国語、ベトナム語、英語、フィリピン語、韓国語、スペイン語の絵本150冊を選書し、購入しました。

Xツイッターで投稿しています

平成29年7月からX（ツイッター）で営業日は毎日、いろいろな情報を発信しています。ぜひ、フォローしてください。
https://twitter.com/ICLO_News

YouTube公式チャンネル

（大阪国際児童文学振興財団公式チャンネル「ICLO」では、YouTube 版本の海大冒険（絵本編、読物編、YA編、科学編）を毎週金曜日に、大人向けに紹介する「新刊子どもの本ここがオススメ」を毎月10日に配信しています。ぜひご覧ください。チャンネル登録もお願いいたします。

◆財団ホームページに、公開内容一覧と、動画へのリンクを掲載しています。

内容もりだくさん！メルマガ発行、ぜひ会員登録を

毎月メルマガを発行しています。発行は、月1回、毎月20日頃に配信しています。登録は無料です。皆さまの登録をお待ちしています。

令和5年7月20日現在、登録数は4,089人です。内容は左記のとおり。

- 1 お知らせ
財団からのお知らせコーナー
- 2 コラム
（1）新刊書の紹介
専門職員が理事長、児童文学者と毎月一冊の本を選んで対談します。本に対する新しい見方が発見できます。
- （2）児童文学作家や作品についてのエッセイ
宮沢賢治作品などについて興味深いポイントや、理事長と専門職員が交互に紹介します。
- （3）子どもの本の珠玉のこぼれ
子どもの本や児童文学の評論書にある、印象深い言葉を紹介するコーナーです。
- （4）行って来ました！
展示会や映画、講演会など、子どもの文化に関する催しのレポート
- （5）宮川健郎 私の出会った児童文学者たち
宮川健郎の視点から現代日本児童文学史の語り直しを試みています。
- （6）全国のイベント紹介
他団体等が実施するイベントを紹介
- （7）プレゼント
今号でとりあげた本やイベントグッズを抽選でプレゼントします。

共同研究を行いました

●明治・大正期における児童文学・児童文化史の研究―巖谷小波未発表資料の検討を通して
明治・大正期の児童文学についての調査研究を外部研究者とともに行いました。

●研究会の開催(3回)
研究メンバー：浅岡靖央(白百合女子大学教授、大貫俊彦(千葉工業大学准教授、香川雅信(兵庫県立歴史博物館学芸課長)、柿本真代(京都華頂大学准教授)、金成妍(久留島武彦記念館館長)、酒井晶代(愛知淑徳大学教授、中川理恵子(豊岡短期大学講師)、松本育子(刈谷市美術館館長代理)、目黒強(神戸大学大学院准教授)、宮川健郎(当財団理事長、武蔵野大学名誉教授、遠藤純(当財団特別専門員、武庫川女子大学准教授)、土居安子(当財団総括専門員・研究代表者)

●独立行政法人日本学術振興会科学研究費助成事業「基盤研究(C)令和2年度」令和5年度

●古田足日と子どもの文化をめぐる総合的考察―蔵書・資料のデータベース化、調査を基に
*独立行政法人日本学術振興会科学研究費助成事業「基盤研究(C) (研究分担者：宮川健郎、令和2～5年度)

●冷戦前期・東アジア英米文学のジオポリティックス
*独立行政法人日本学術振興会科学研究費助成事業「基盤研究(B) (研究分担者：鷺谷花、令和2～5年度)

●日本における女性映画パイオニア・フエミニスト映画史の国際的研究基盤形成
*独立行政法人日本学術振興会科学研究費助成事業「基盤研究(B) (研究分担者：鷺谷花、令和2～6年度)

●国語科教育における「近代童話／童謡」の再評価と新教材の発掘をめぐる調査研究
*独立行政法人日本学術振興会科学研究費助成事業「基盤研究(C) (研究分担者：宮川健郎、土居安子、令和4～7年度)

●論文集
『大阪国際児童文学振興財団研究紀要』第36号の発行

●目次
「少年文学」叢書と口絵・挿絵の制作
【研究ノート】
巖谷小波といとう呉服店―出発期の動向・新聞記事を手がかりとして―
「絵本」としての「日本一ノ画断」
土居安子
岡本帰一の童画観に関する考察
遠藤知恵子

●報告
巖谷家所蔵 巖谷小波関連絵葉書研究について―多様な小波研究への入り口―
中川理恵子

出版や展示の企画を行いました

●貴重な資料の複製や作家選集、論文集など児童文学・児童文化に

関わる各種出版事業の相談に応じています。

●電子図書館まなびライブラリー
(株) ベネッセコーポレーションから受託し、選書の支援を行いました。

●出版社等による企画協力業務の受託
(公財) 伊藤忠記念財団「子ども文庫助成事業」の助成団体の選定を行いました。

資料を販売しています

財団発行資料

●『2022年度国際交流事業報告集 国際講演会「日本の子ども」に描かれる「西洋」のイメージ―石井桃子翻訳作品から始めて―(ステイブン・チエ) 880円

●『2021年度国際交流事業報告集 オンライン国際講演会「こ」とばを越えて―絵で物語る―(アイヴィッド・ウィーズナー、シヨーン・タン) 1100円

●『2021年度講演会報告集「シンデレラ話の多様な世界を楽しもう」(横川寿美子) 880円

●『国際児童文学館紀要 1号』26号 1100円～2090円
●『大阪国際児童文学振興財団研究紀要』27号～36号 1430円～1760円

●そのほか、国際講演会報告集、論文集など多数あります。ご希望の方はお問い合わせください。(価格は税込)

寄付のご報告とお願い

令和4年度も多くのご支援をいただきました。深く感謝申し上げます。IICLOの経営状況はまだまだ厳しい状況にあります。継続してのご協力をお願い申し上げます。

【ご寄付の種類】

◇継続寄付(毎年、毎月) ◇単発寄付

【ご寄付の方法】

◇クレジットカード

ウェブサイト「Syncable(シンカブル)」の大阪国際児童文学振興財団ページから

◇ゆうちょ銀行 振替口座に払い込みください。

□口座番号 00910-8-282098

加入者名 (一財)大阪国際児童文学振興財団

※ 他の金融機関からの振込の場合

店名 ○九九店(ゼロキョウキョウ店)

店番 099 預金種目 当座

□口座番号 0282098

1万円以上ご寄付をいただいた方には

佐々木マキさんデザインのイクロちゃんグッズをプレゼントしています。

◆令和4年度は、366件

14,117,848円のご寄付をいただきました。ありがとうございました。

(ご寄付いただいた方々のお名前前は別紙をご覧ください)



資料のご寄贈をありがとうございました

今年度も出版社、作家、研究者、同人誌サークルなどから、児童書や児童書に関する資料などの寄贈をいただきました。これらの資料は、永久保存および一般の利用に供するため、大阪府立中央図書館国際児童文学館に引き継ぎました。(ご寄贈いただいた方々のお名前は別紙をご覧ください)

図書	12,298冊
雑誌	5,995冊
その他資料	1,261点
計	19,554点

編集後記

「大阪国際児童文学振興財団レポート第13号」をお届けいたします。当レポートでは、令和4年度に実施しました主な事業を掲載しています。公式の事業報告、決算報告はホームページで公開しています。
図書資料の寄贈・寄付金・各種の事業協力など、皆さま方のご支援・ご協力で深く感謝いたします。引き続き皆さま方のご支援をお願い申し上げますとともに、当財団の運営について、忌憚のないご意見をお願い申し上げます。